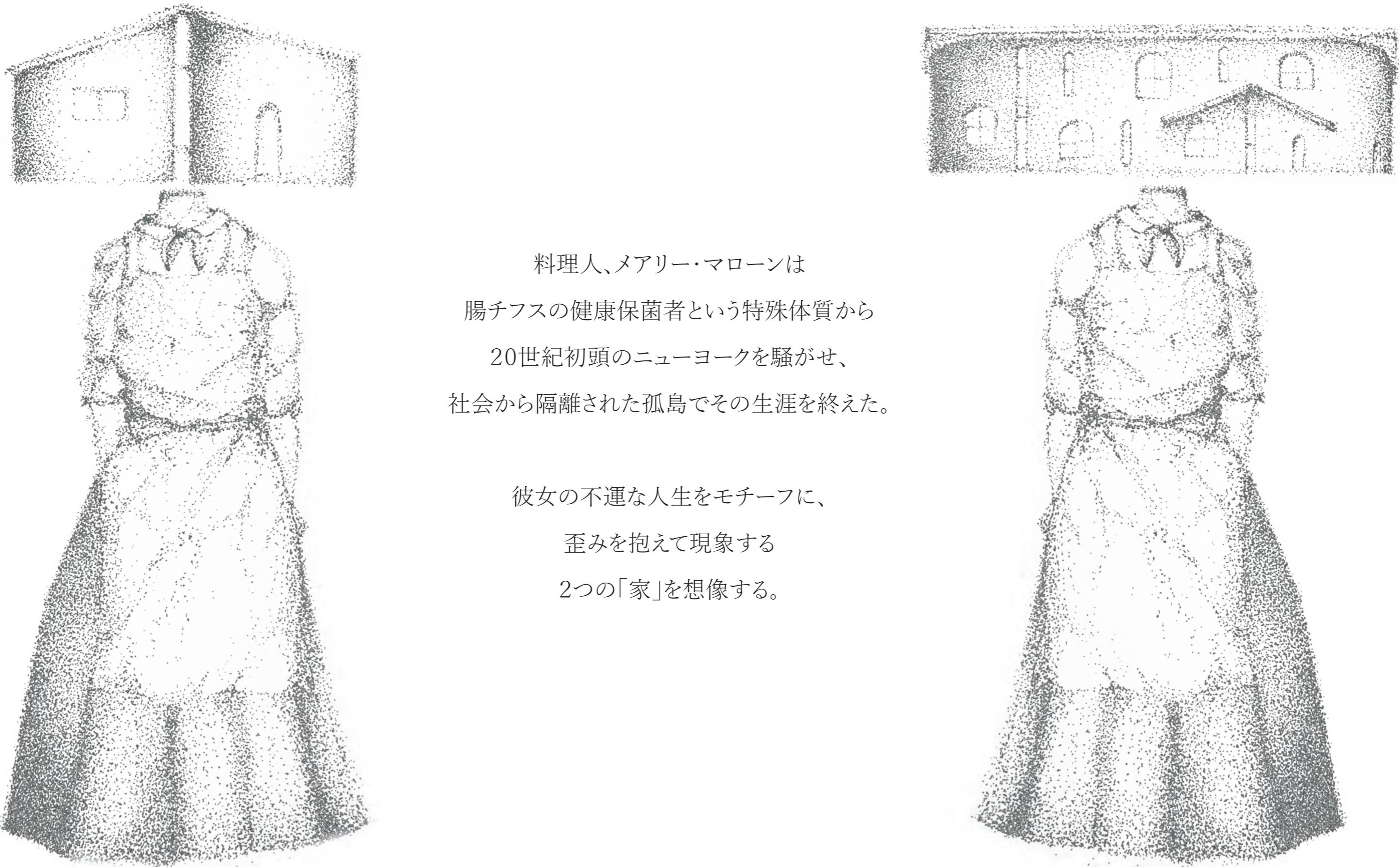


水崎 恒志

2025 年卒業

卒業設計

「メアリーの 2 つの家」



料理人、メアリー・マローンは
腸チフスの健康保菌者という特殊体質から
20世紀初頭のニューヨークを騒がせ、
社会から隔離された孤島でその生涯を終えた。

彼女の不運な人生をモチーフに、
歪みを抱えて現象する
2つの「家」を想像する。

1 - 背景 - Background

1-1. メアリー マローン - Mary Mallon

彼女は世界で初めて臨床報告されたチフス菌の健康保菌者であり、「腸チフスのメアリー(Typhoid Mary)」として衛生学の分野では半ば一般名詞化している。

メアリーは北アイルランドの移民であり、賄い婦としてニューヨーク近辺の家を転々としていた。彼女は料理の才能に恵まれ、面倒見もよく、雇い主から信頼されていた。

38歳を境に彼女の人生は大きく歪む。

彼女が関わった家庭から腸チフス患者が続出していたことが判明したのだ。不運にも腸チフスに感染しながらも発症しない特殊体質を持つメアリーは、料理を介して腸チフス菌をばらまく脅威として、当時のニューヨークの公衆衛生の注目の的となった。新聞はメアリーを「歩く腸チフス工場」とすら呼んだ。

彼女はニューヨークブロンクス区近くに浮かぶノース・ブラザー島に隔離され、69歳に肺炎で亡くなるまでの生涯を社会から隔絶された島で過ごすこととなる。

1-2. ノース・ブラザー島 - North Brother Island

ノース・ブラザー島はニューヨークを縦断するイーストリバーに浮かぶ、一周でも1kmちょっとの小さな島である。もとは無人島だったが、1885年に天然痘や結核患者などを収容する目的で、リヴァーサイド病院が別の島から移転された。

つまりは当時の防疫思想を体現したような隔離島であり、ニューヨークブロンクス区の岸からの距離は500mほどしかないが、社会との距離は極めて大きい。

この島で彼女は、実に人生の三分の一を過ごした。

2-メアリーの2つの家

- Mary's two houses

2-1. 2つの家

- Two houses

2つの家を考える。

ひとつは彼女のフィジカルな生活の受容器として。

もうひとつは彼女を社会に定位、接続させ、自らを表現するものとして。

敷地はノース・ブラザー島とブロンクス区市街地である。

恣意的な名づけはさけ、等価なものとして、各々の敷地の頭文字から

house N 、 house B と呼ぶことにしよう。

2-2. 敷地

- site

house N : 敷地はノース・ブラザー島西側、リヴァーサイド病院から近く、対岸のブロンクス区が望める岸辺とする。

house B : 敷地は、彼女の葬儀が執り行われた聖ルカ教会からほど近く、ブロンクス区の当時の市街地の角地とする。周囲は計画的にグリッド状の街区が広がり、煉瓦造りの建物が立ち並ぶ。

両敷地は、イーストリヴァーを挟み
物理的には2kmほどしか離れていない。

2-3. プログラム

- program

両敷地は対照的である。ここにメアリー・マローンという一人の人間、その小さなナラティブを背負い、互いが互いの不在を抱え込みながら現れる不具の建築を考える。

house Nは、島で暮らすメアリーのための単身者住宅である。

house Bは、メアリーが残したレシピにをもとに運営される
街中のレストランである。

メアリーは皮肉にも料理の才能に恵まれていた。誓約を破ってまで料理人として働いた彼女にとって、料理は生きがいであり、社会の中で自らを定位させる手段ですらあったであろう。

house Bはメアリー不在のもと、以前のように料理をふるまい続ける。

どんな常連客もhouse Nを訪れることはなく、
メアリーがhouse Bの厨房に立つこともない。

3 - 不具の建築 - Distorted Architecture

メアリーの不在。 存在理由の不在。 社会との接続口の不在。 ノーマルであることの不在。
house N の不在。 house B の不在。

不在を抱え、離れながらも2つは家であるだろうか。

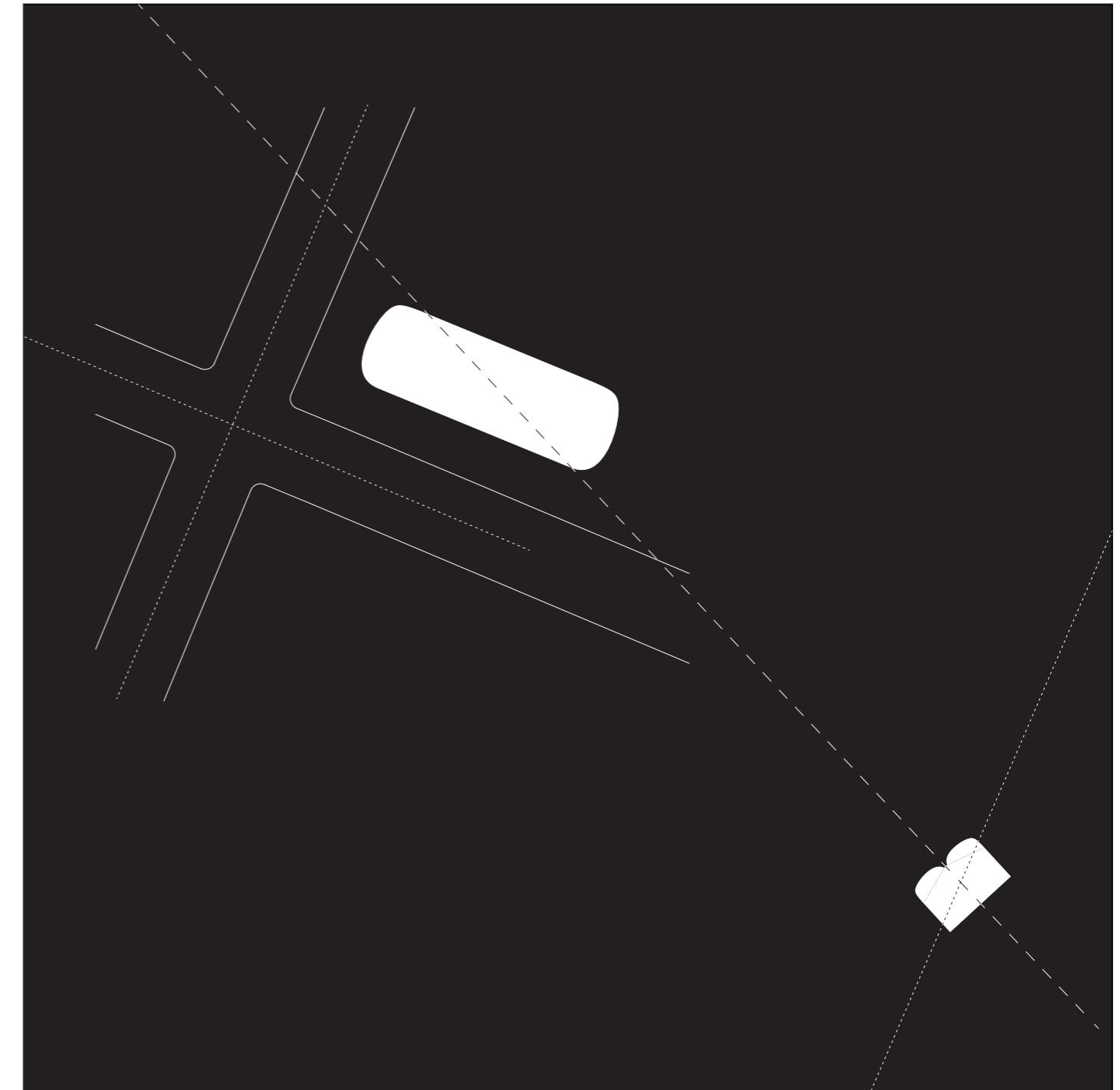
不在を抱えながら2つの建築は現象する。
不具の建築は互いを求めあう。
互いのもつ文脈、形態を引用しあうように2つの家は現れる。





house N : ノースブラザー島西部

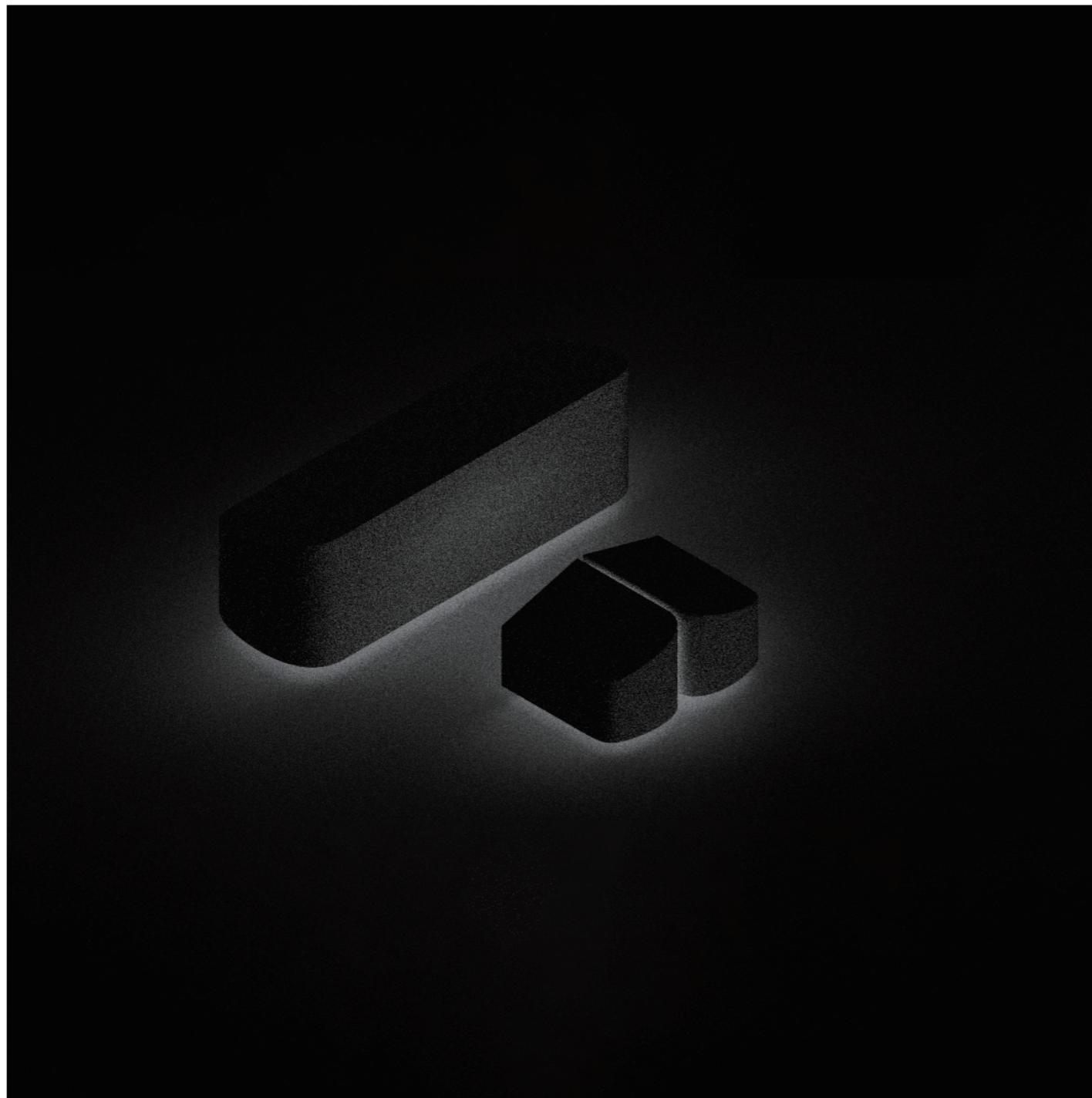
house B : ニューヨーク ブロンクス区 市街地



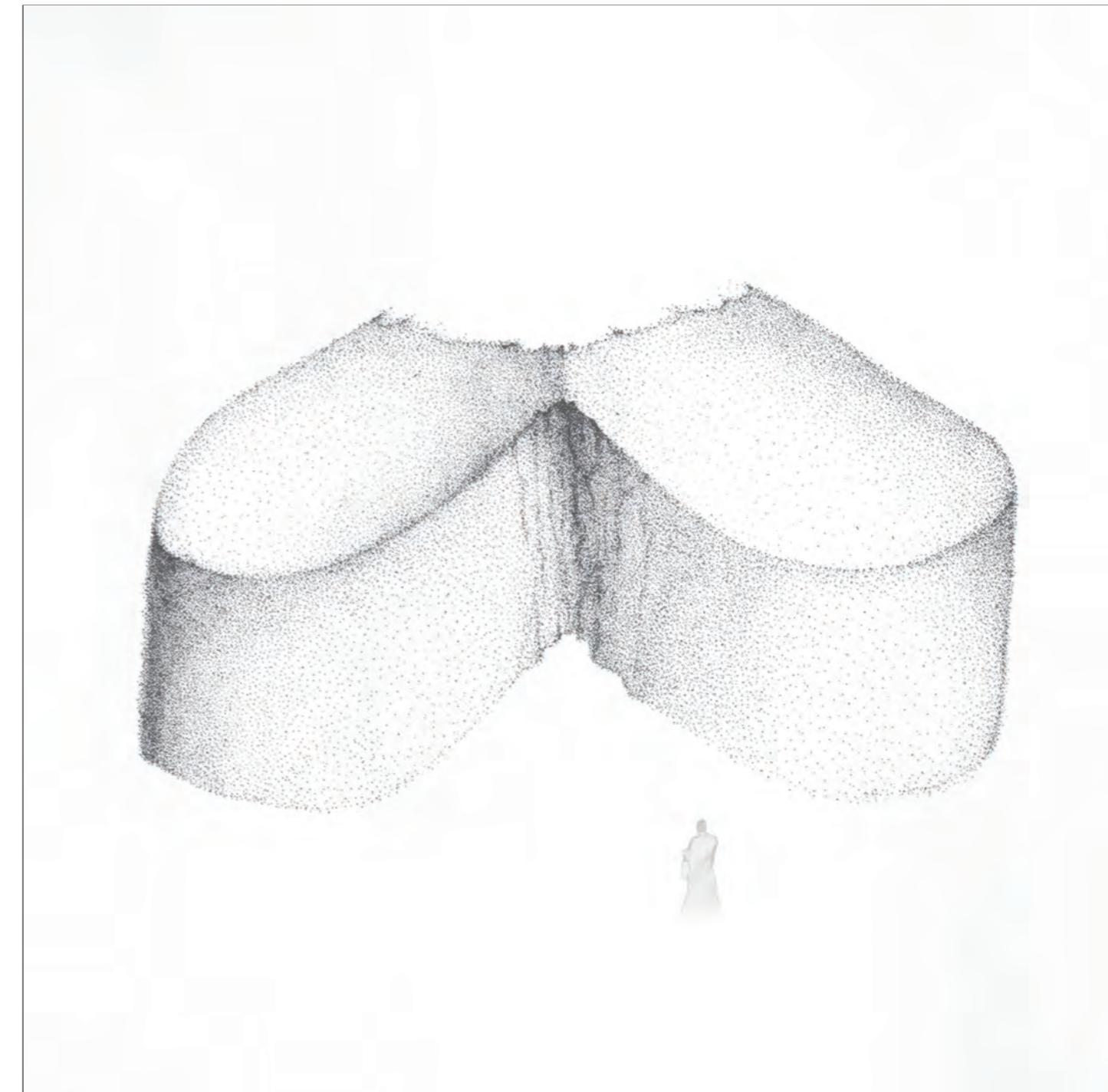
house B の平面は、自らと house N をつなぐ直線の貫入を受ける。

house N は、house B を望む軸線に従い設計される。

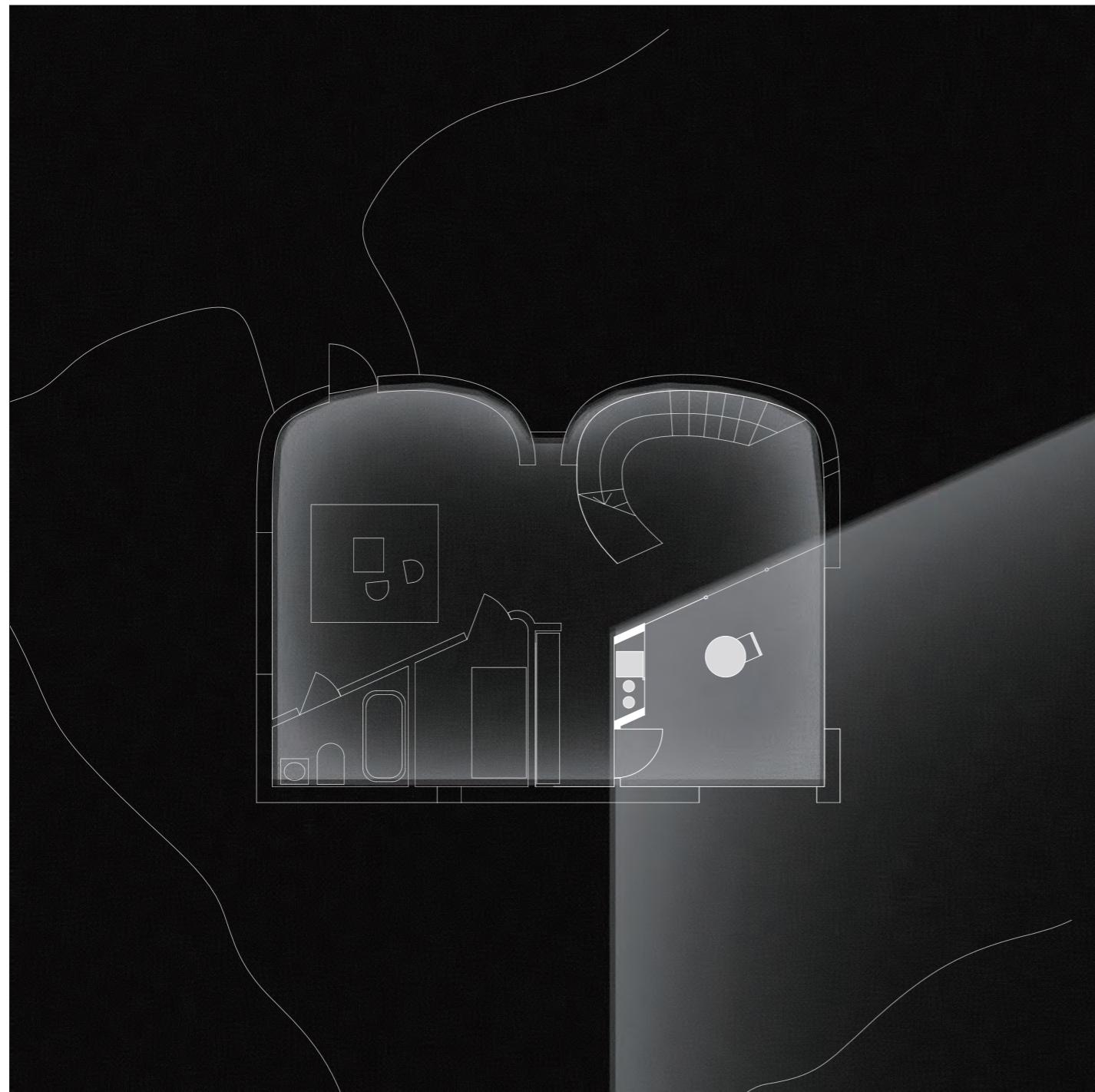
その平面には house B が従うグリッドの都市軸が貫く。



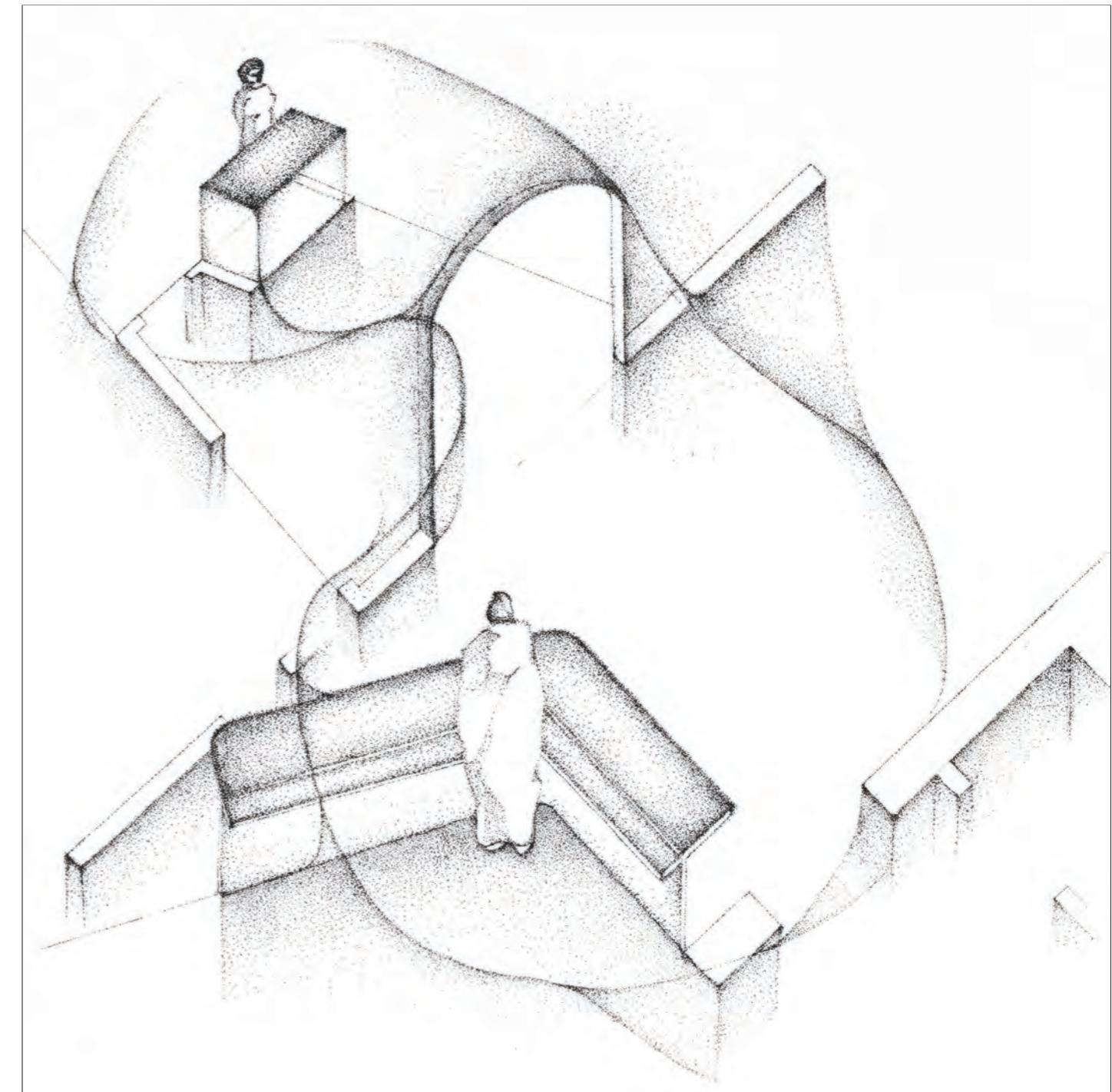
二つの建築のボリュームは、開 - 閉 の操作を介して相似形をなす。



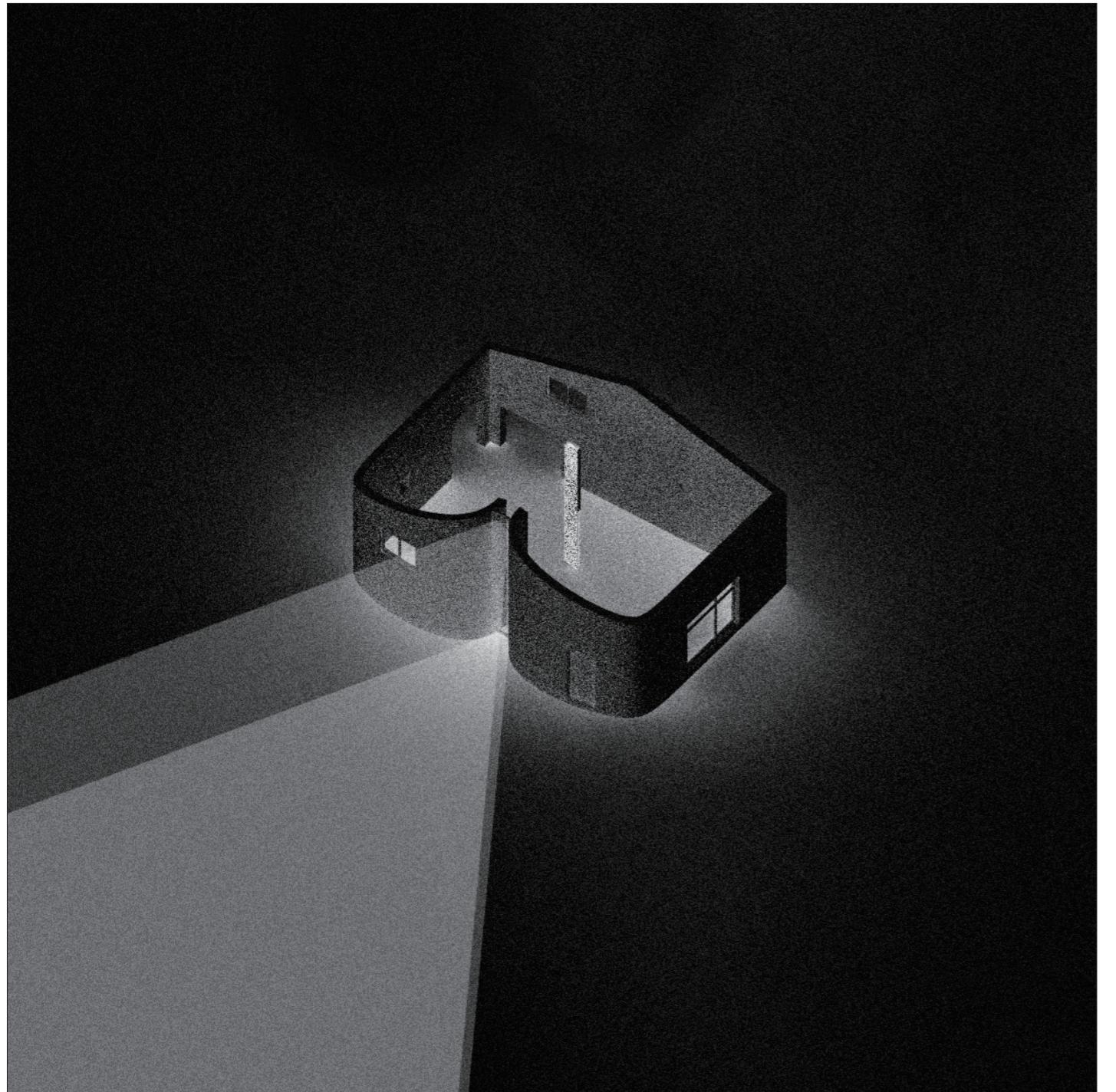
ボリューム ドローイング



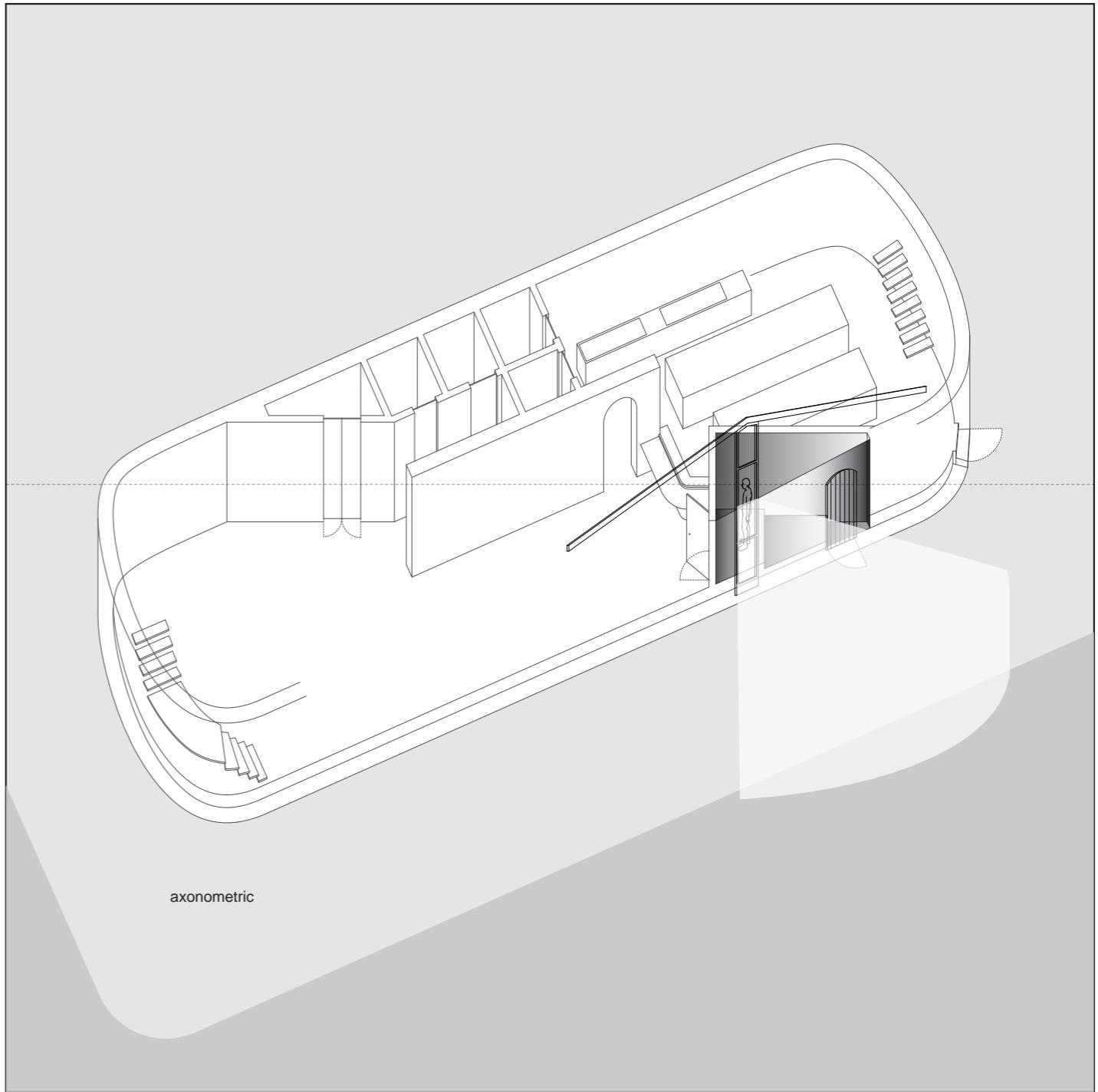
そっけない正面入り口に対し、house N は勝手口にポーチを持つ。
キッチン空間の解放と疎外という両義性。



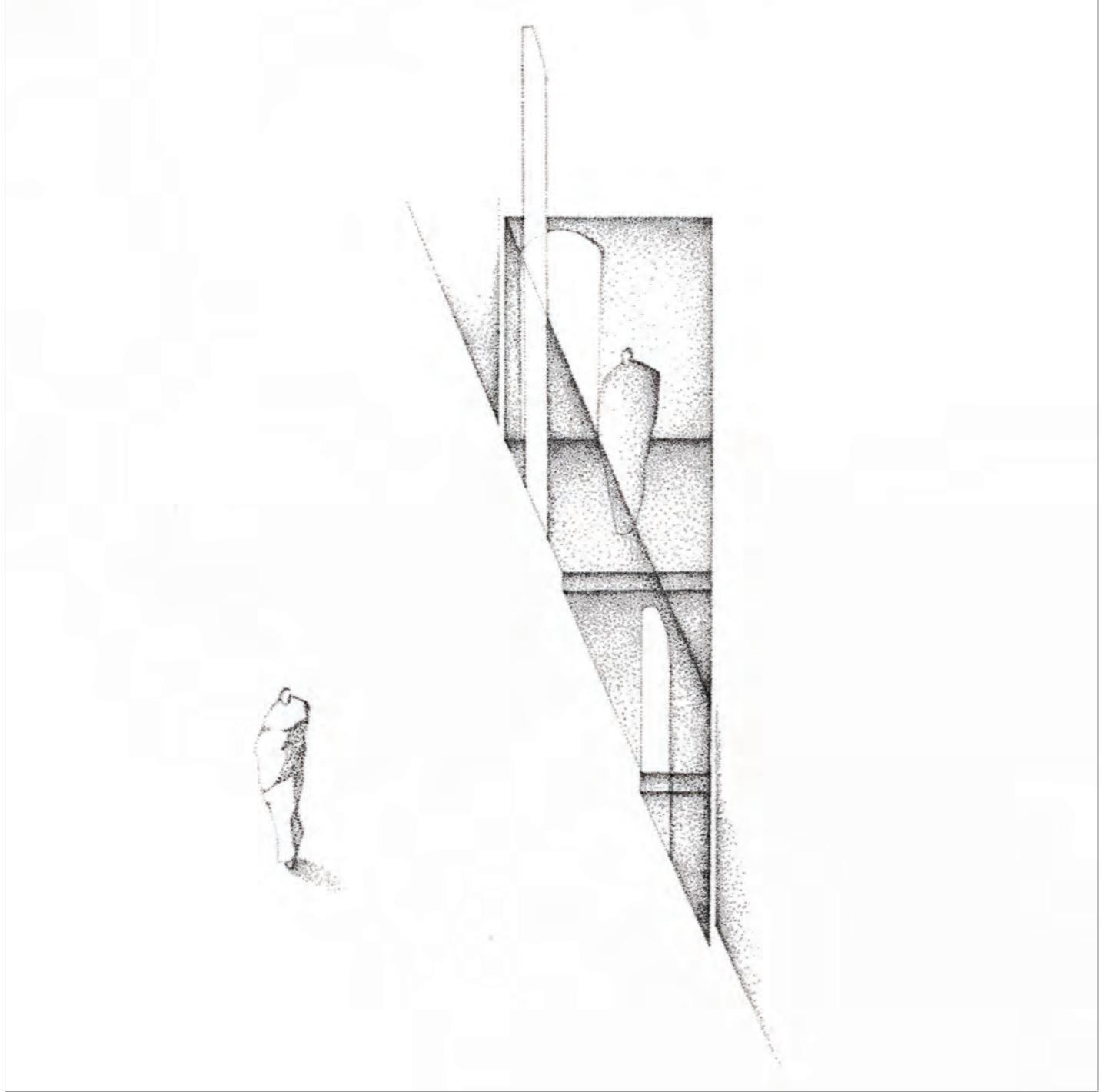
キッチンとアーチ開口
アクソノメトリック ドローイング



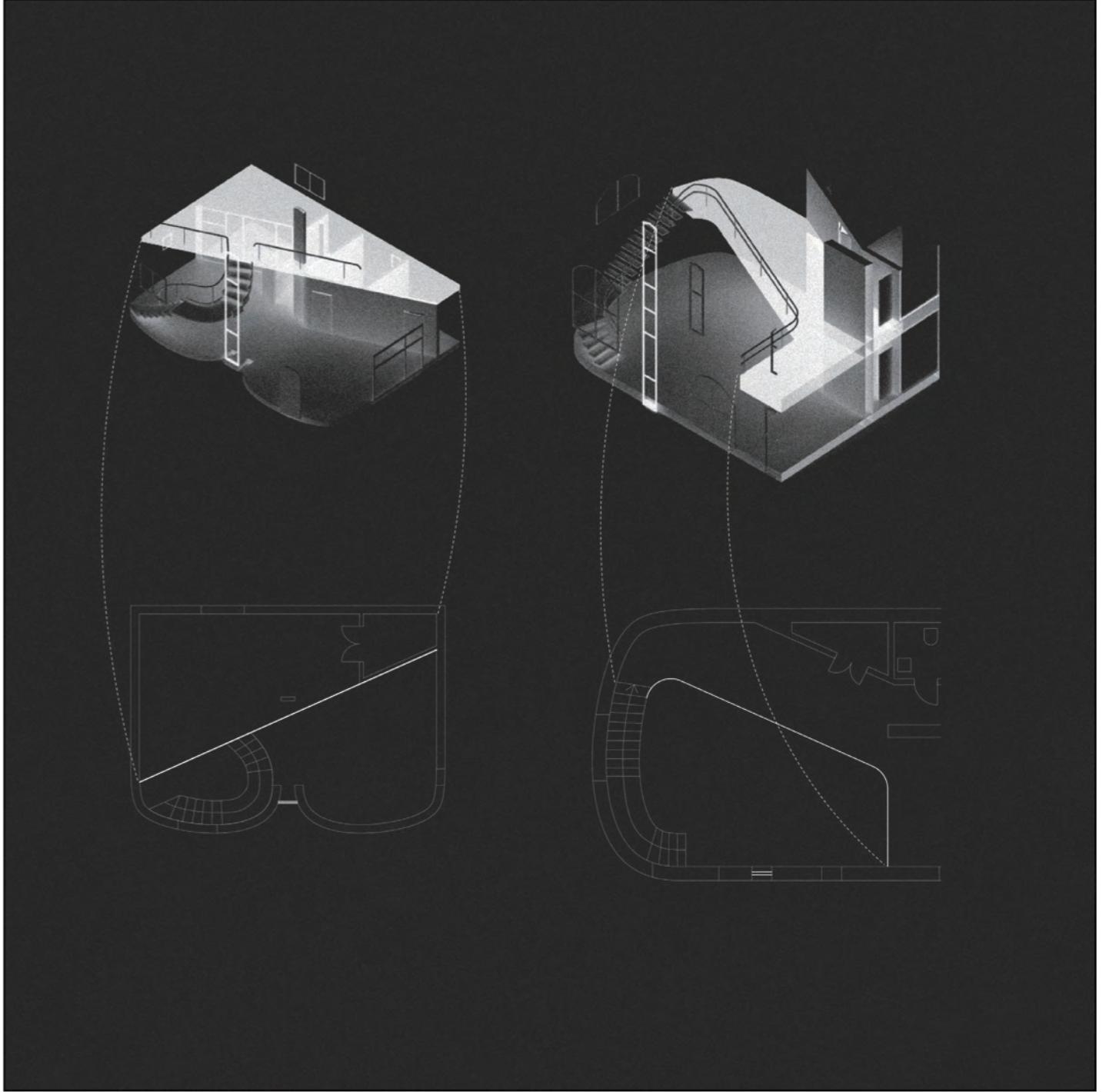
house N のファサードには内に抱え込むような自閉性と、隙間から覗く外界への思いが同居する。2つの家をつなぐ軸線は、ちょうど隙間と同じ幅を持つ中央の柱によってキャンセルされる。



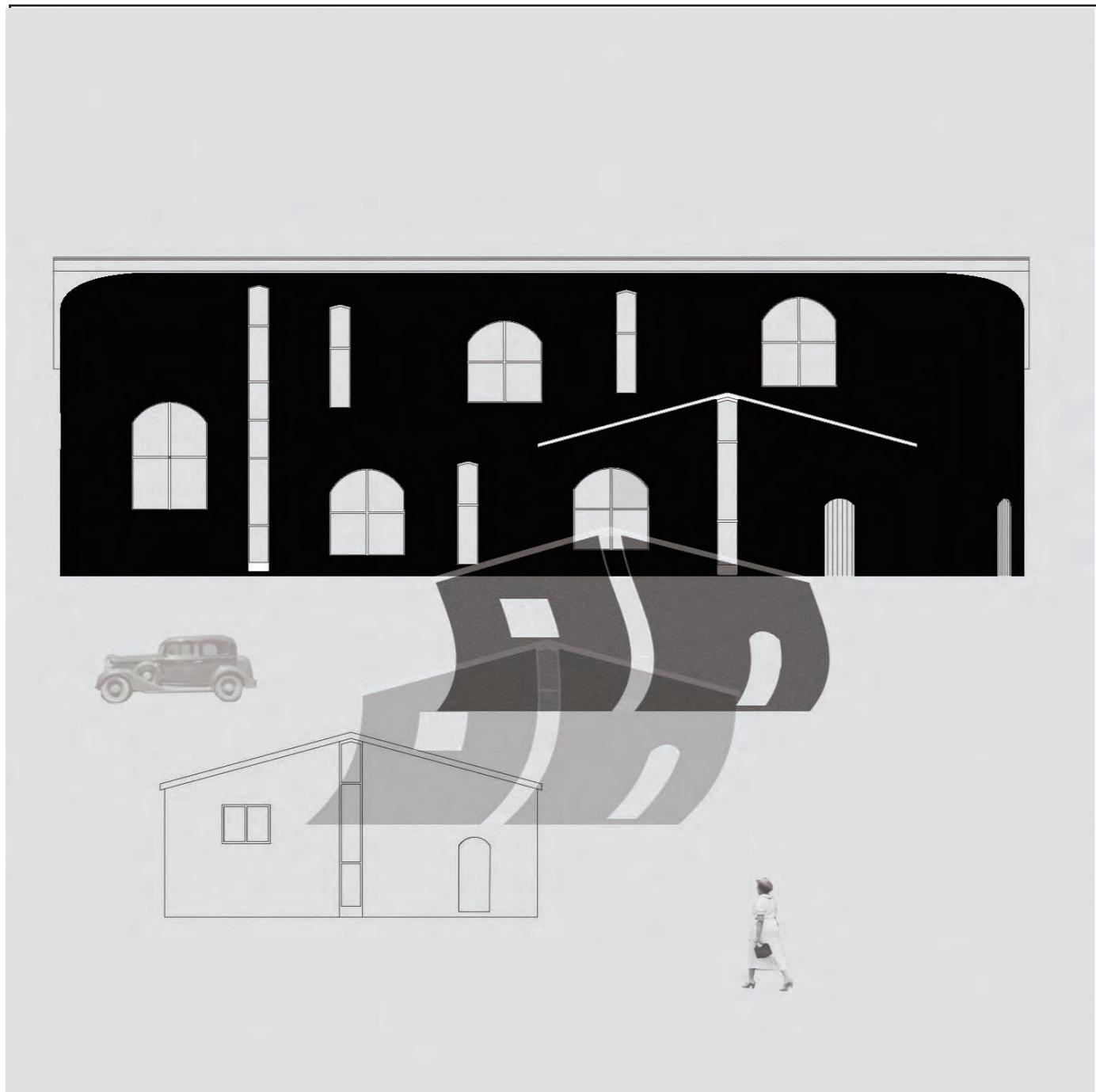
都市の文脈と異なる位相にあることを示すように、house B の入口はズレた軸線と抑えられた天井高、スリット開口からなる胎内巡り的な前室空間をもつ。この都市空間からのアプローチは、house N の空間言語を饒舌に用いて形成される。



house B 通りと前室空間
アクソノメトリック ドローイング



両建築は共通して吹き抜け空間とそこから覗くスリット開口をもつ。
空間体験としての引用。



house B はブロンクス区の通りに対してその内部を開き、
揺れるようなファサードを見せる。メアリーの不在という自らの存在の不安定さ。
そこには house N のファサードが浮かび上がる。



house N は主に木造、house B は主にレンガ造である。
その外壁の素材感は、ノンスケールで匿名的な表現として塗り上げられ、キャンセルされる。
自らの存在に対し、ノーマルでありたいという思い。

house N

機能は単身者向け住宅
敷地はノースブラザー島西部
繰り返すメアリーの生活を見守る。

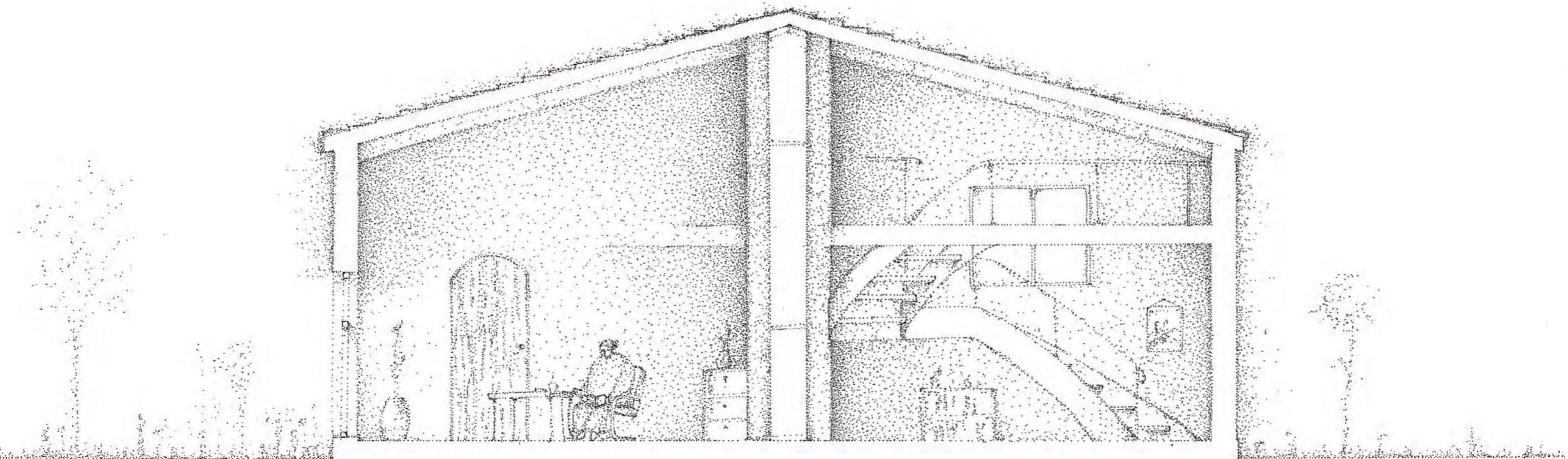
終わったら火をとめて
またここで眠るのね

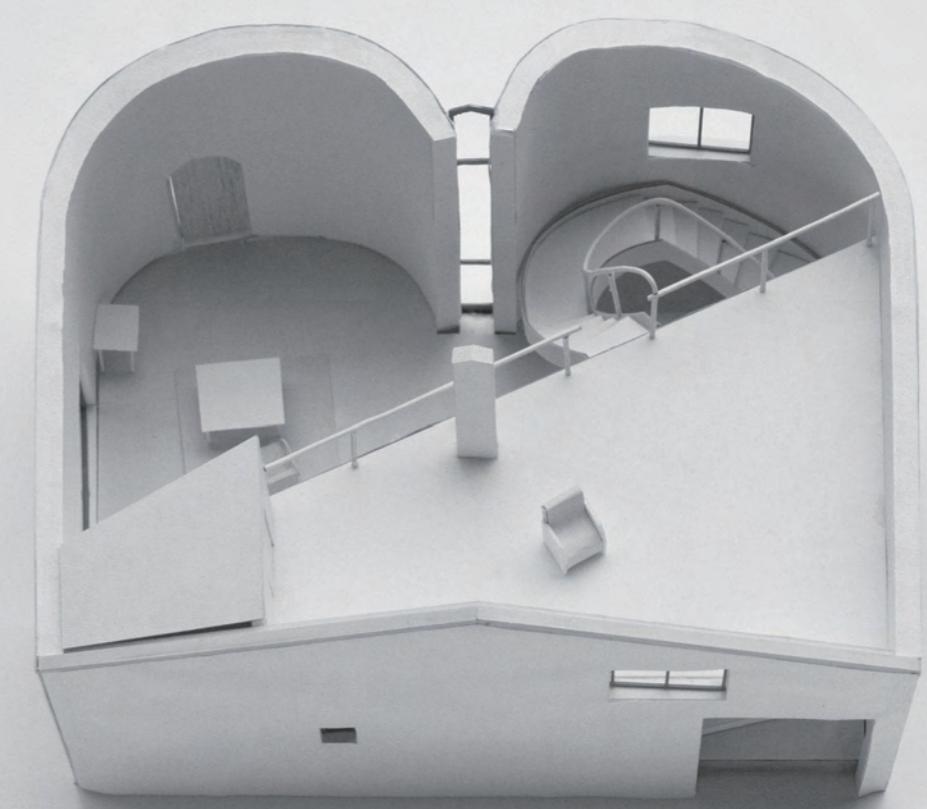
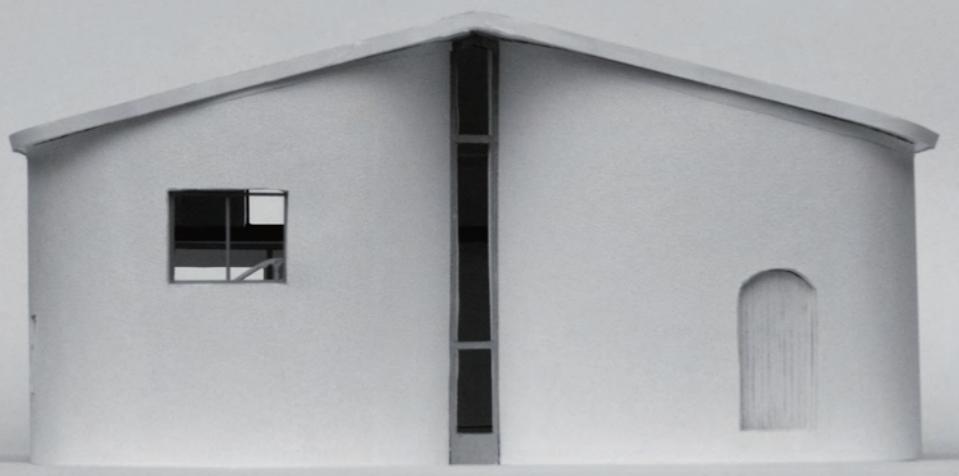
喧噪も悲哀もここにはとどかない

朝の光が屋根をてらして
ぬるい空気がまつ毛に触れたら

薄いかけが隅にひそんで
宙づりの中で腰をかけたら

私から見えるのは何？



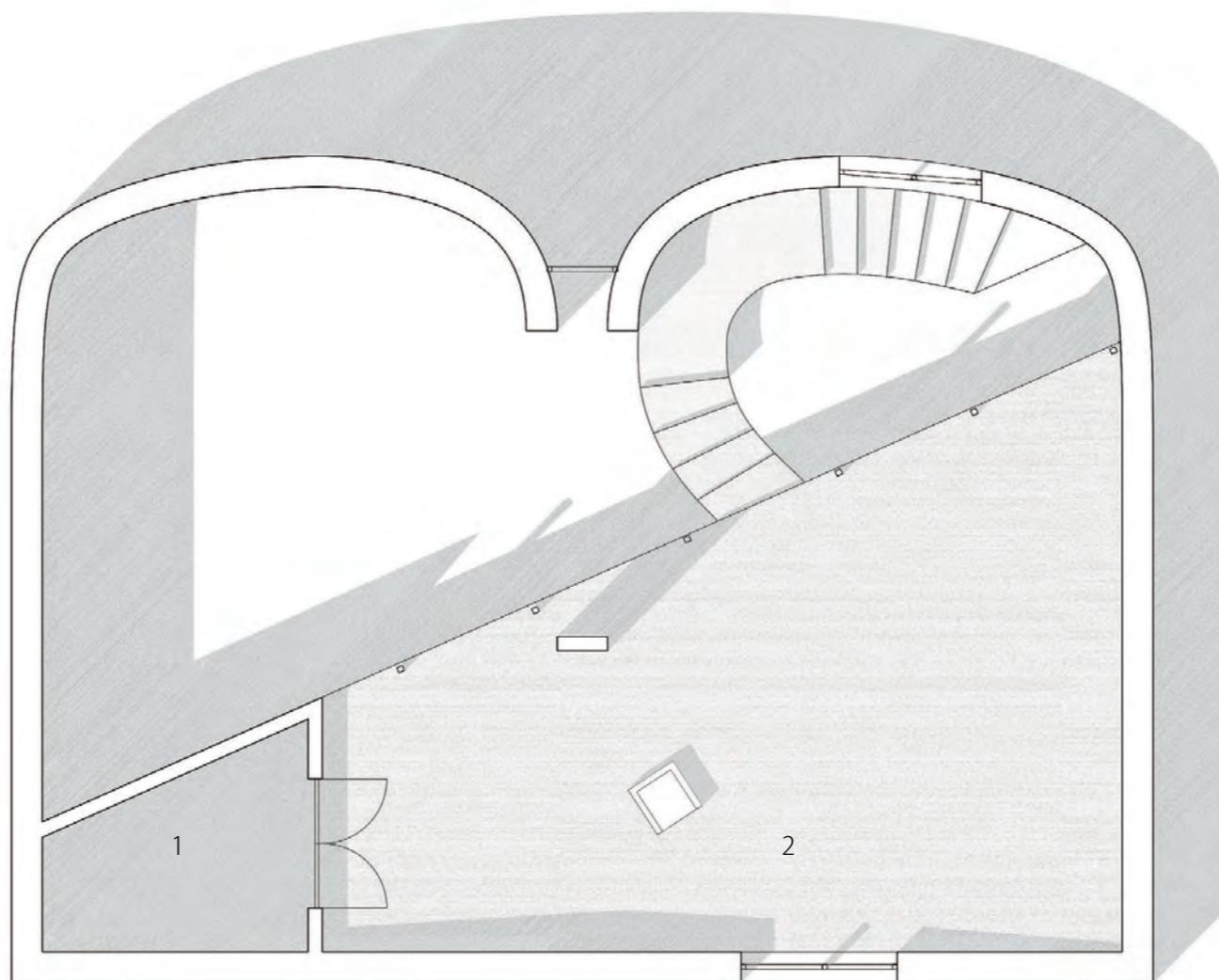




house N
1F plan

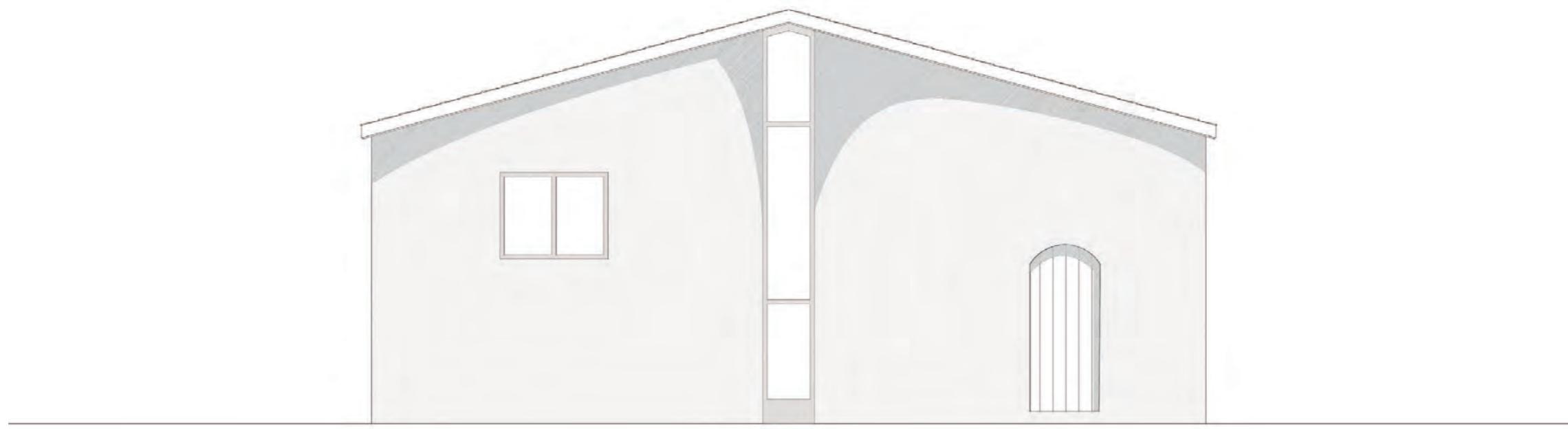
- 1 living
- 2 bathroom
- 3 bedroom
- 4 kitchen
- 5 backdoor pouch





house N
2F plan

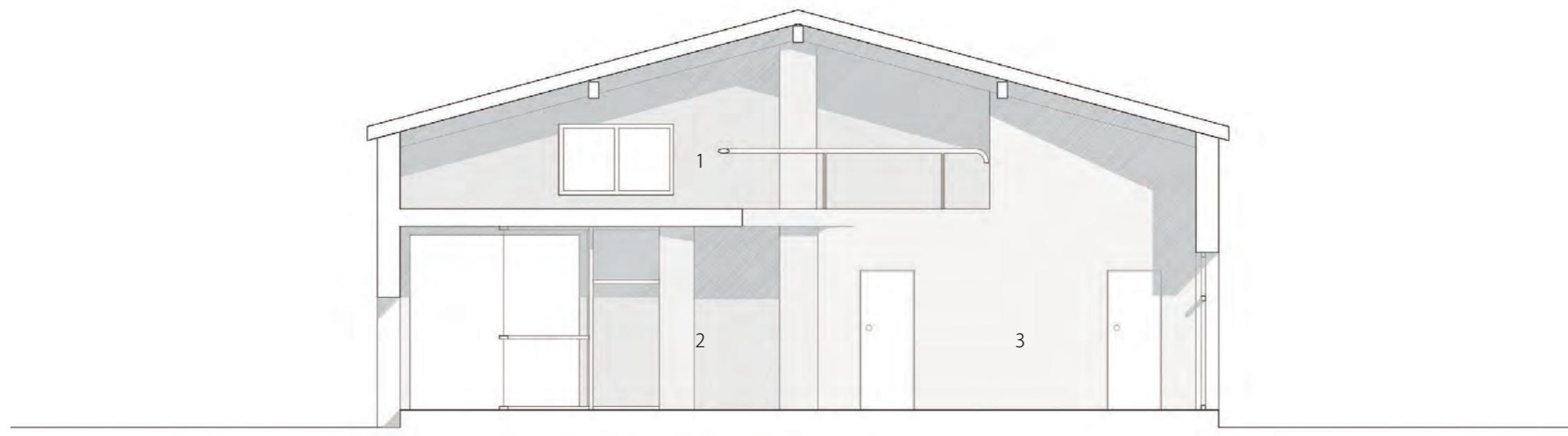
1 storage
2 loft



house N
north elevation

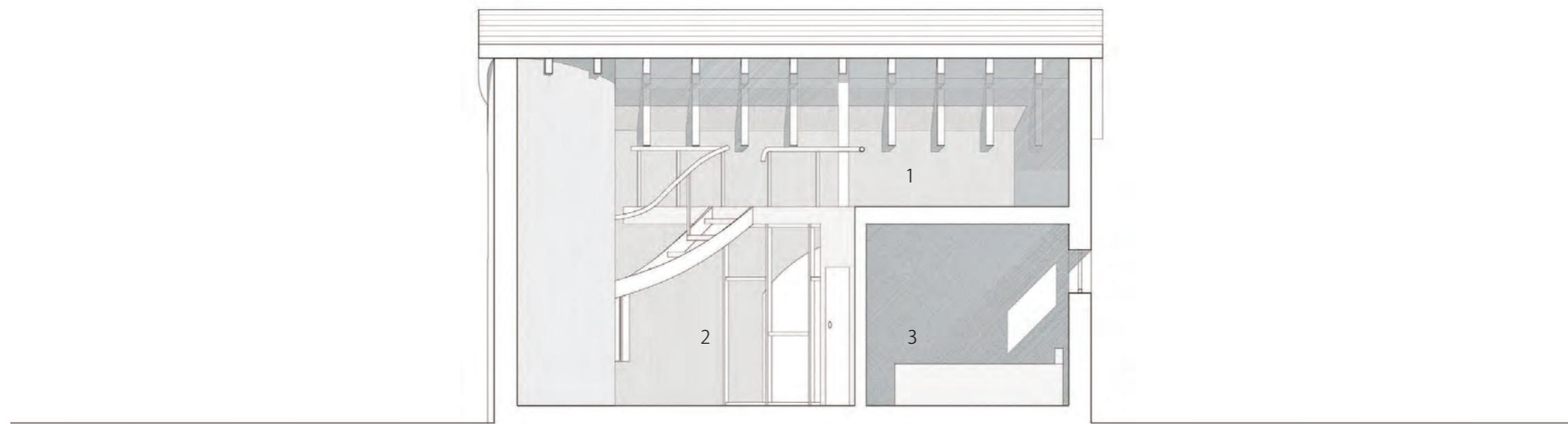


house N
east elevation



house N
section 1

- 1 loft
- 2 kitchen
- 3 living



house N
section 2

- 1 loft
- 2 living
- 3 bedroom

house B

何でも見える

何にも見えない

まず人の往来があって

話し声はさわやかに響いて

知らないことは知らない今まで

車のガスがのぼって

それから

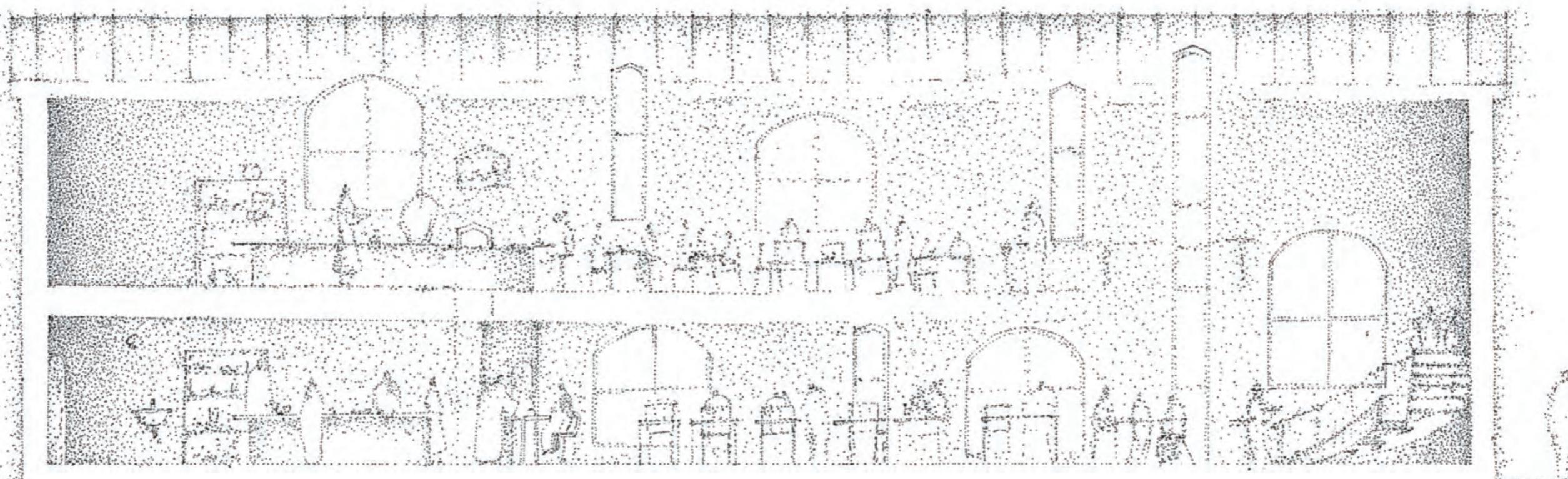
機能は大衆向けレストラン

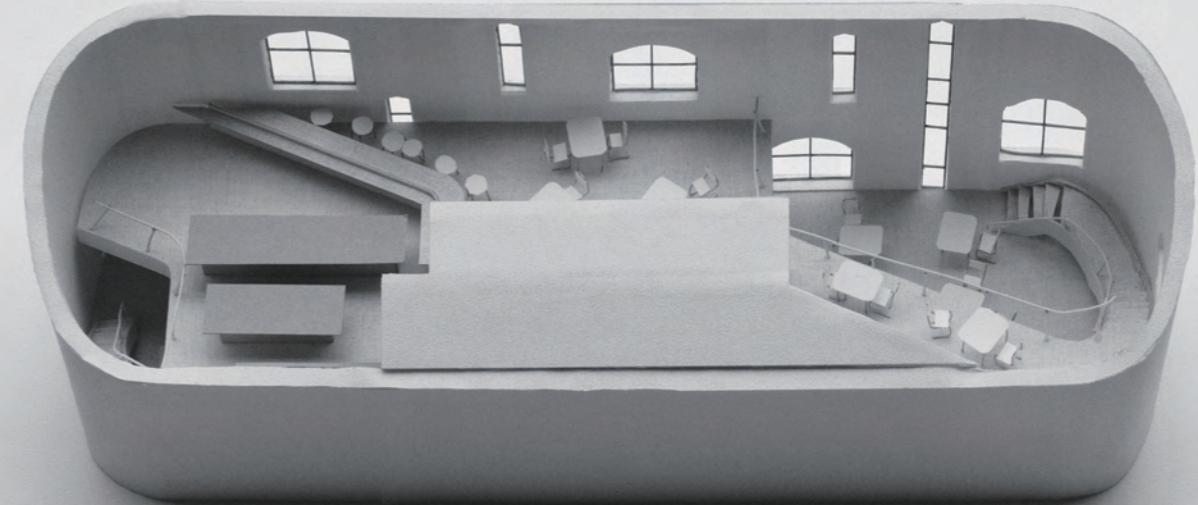
敷地はニューヨークブロンクス区の市街地の一角

メアリーの料理をふるまい続ける。

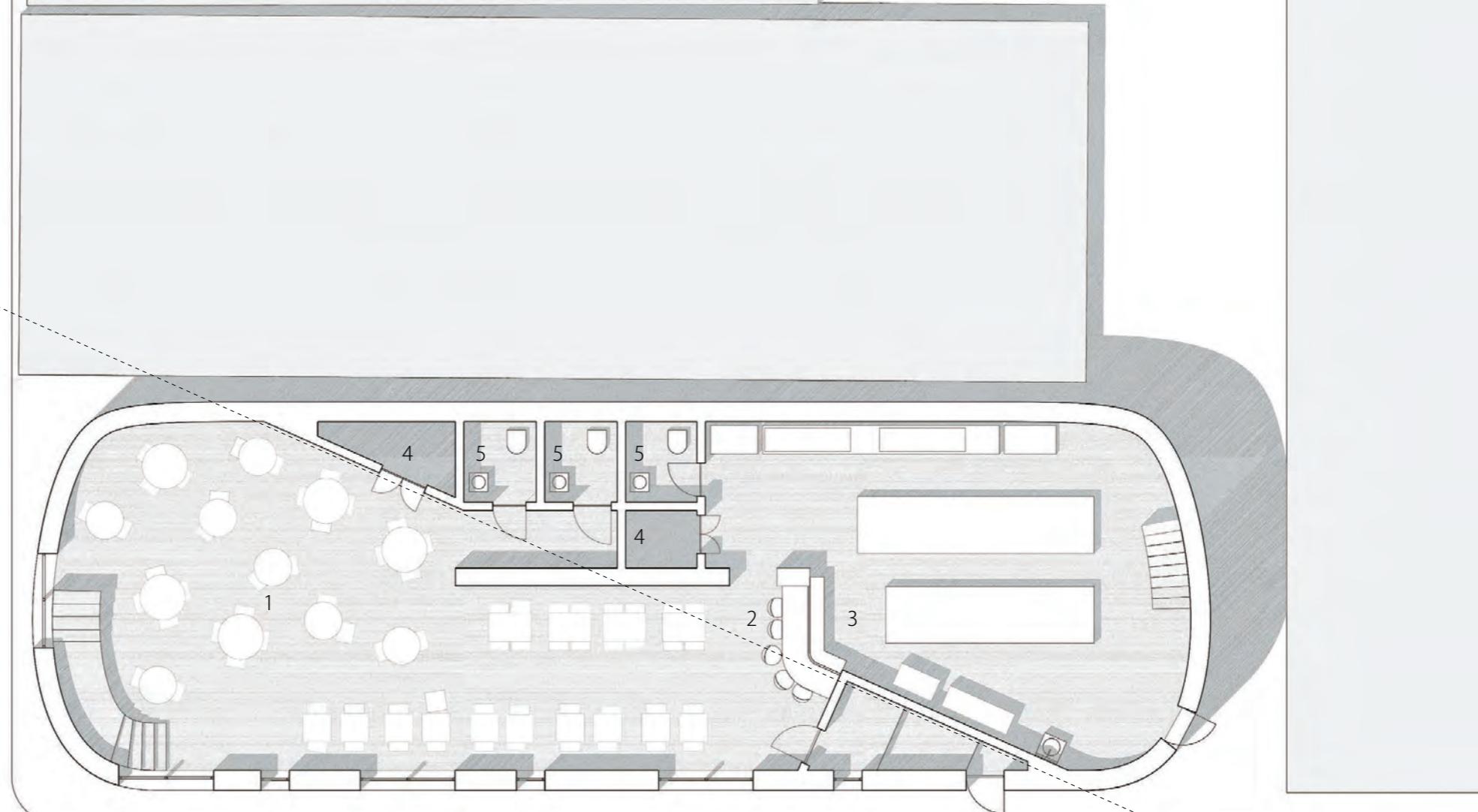
またお客様がきたわ

さあ 火をつけて



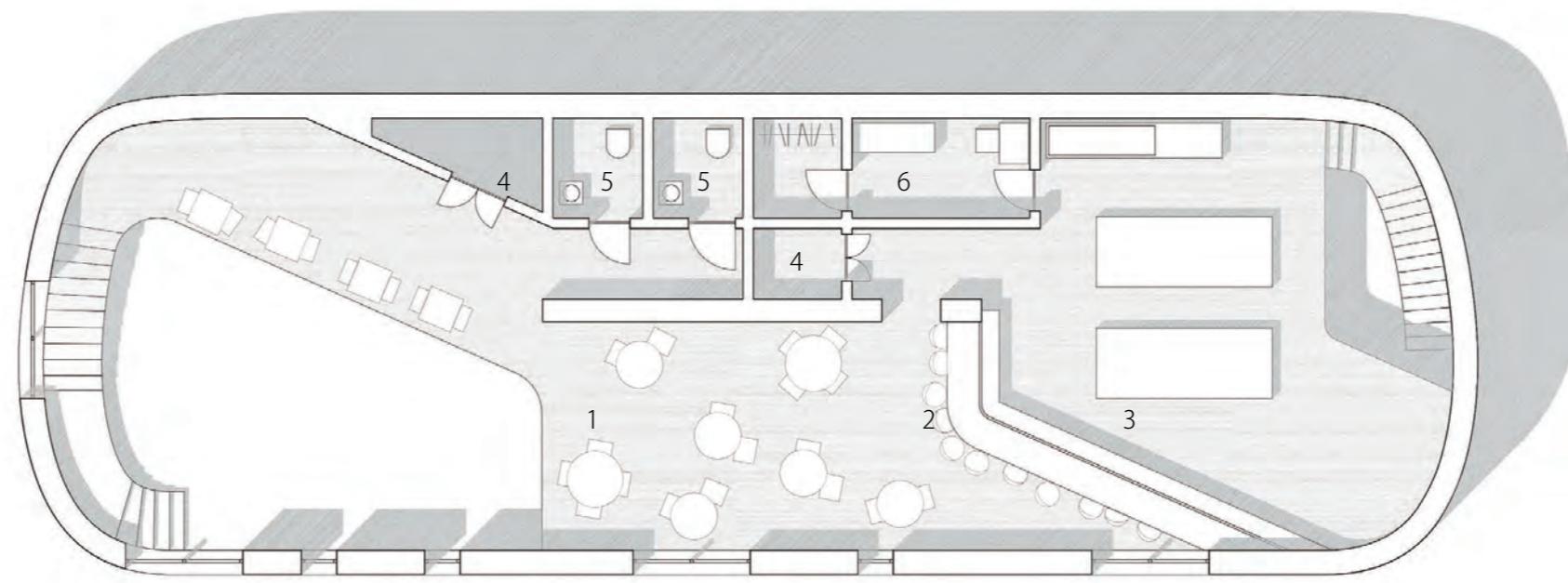


scale = 1 : 120



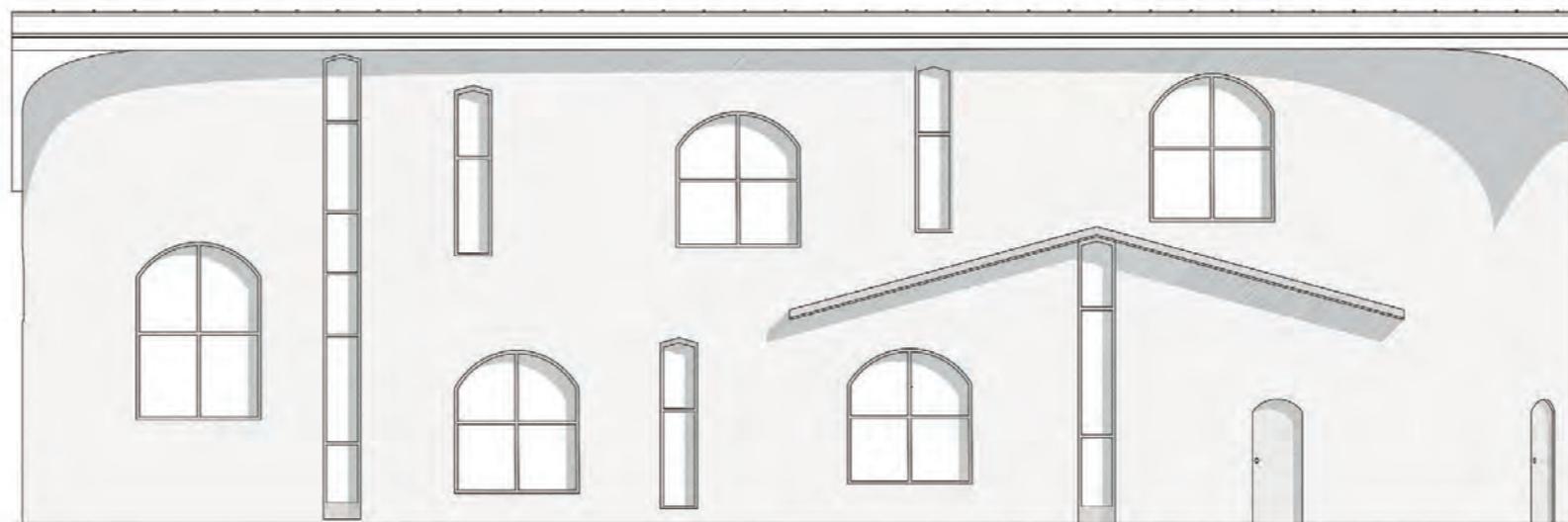
house B
1F plan

- | | |
|---|----------|
| 1 | hall |
| 2 | counter |
| 3 | kitchen |
| 4 | storage |
| 5 | restroom |

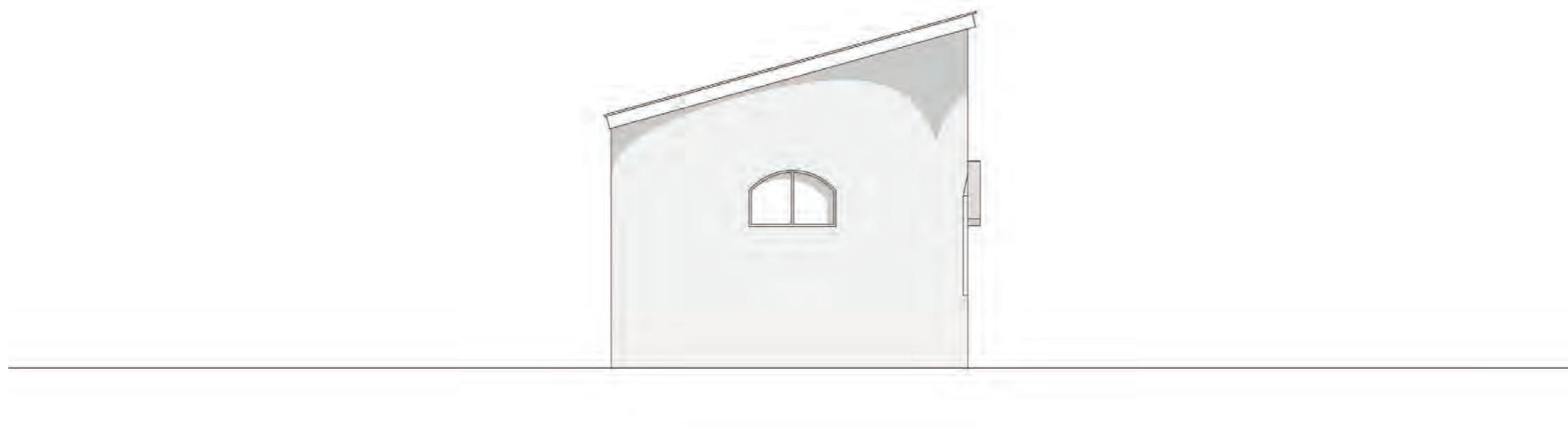


house B
2F plan

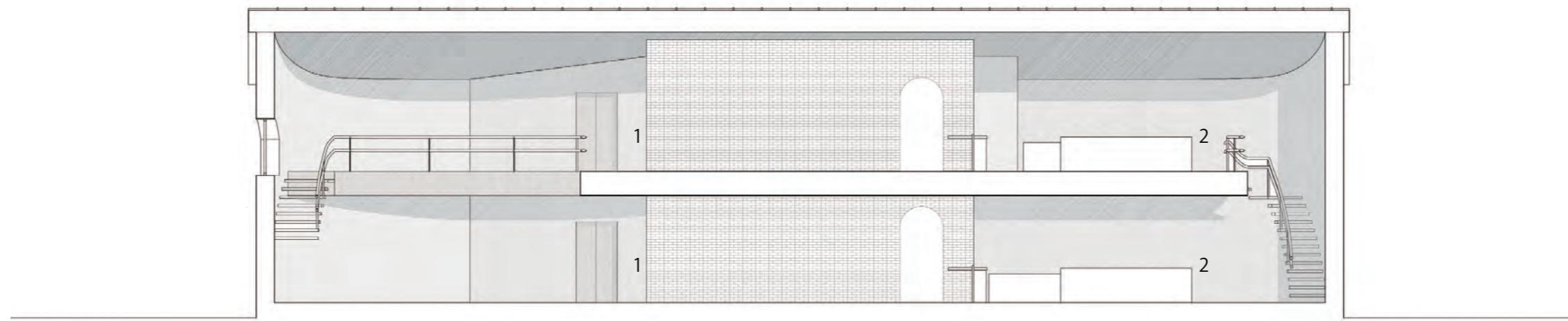
- 1 hall
- 2 counter
- 3 kitchen
- 4 storage
- 5 restroom
- 6 backyard



house B
south elevation

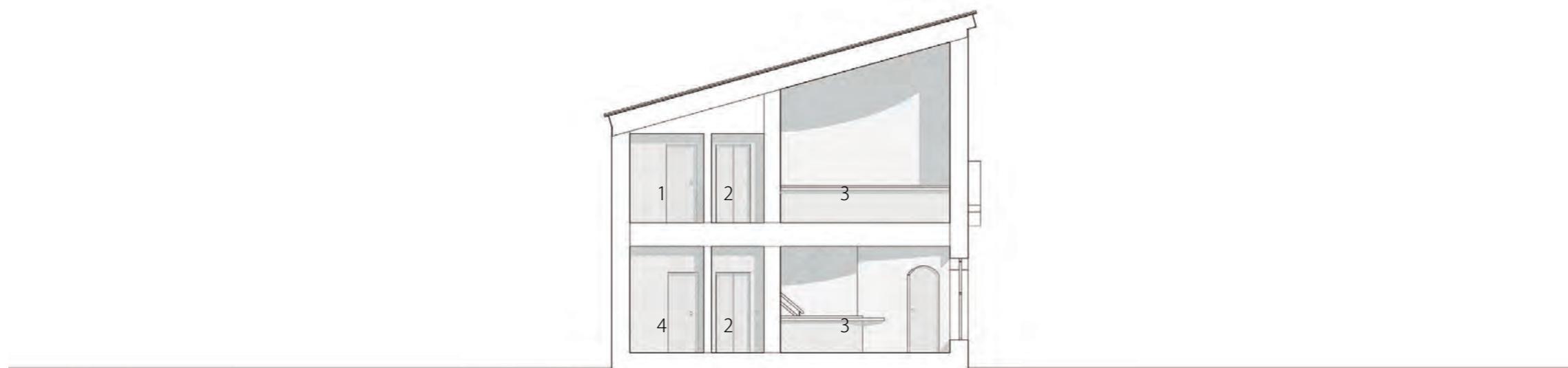


house B
west elevation



house B
section 1

1 hall
2 kitchen



house B
section 2

- 1 backyard
- 2 storage
- 3 hall
- 4 restroom